

第1回全国小水力大会
分科会1「地域主体で開発する小水力発電」


地域が事業主体となった小水力発電事業を推進するために

2015年11月19日

特定非営利活動法人地域再生機構 副理事長
石徹白農業用水農業協同組合 参事

平野彰秀 (ひらの・あきひで)

岐阜県郡上市
白鳥町石徹白
(いとしろ)

- ・郡上八幡から車で1時間
- ・標高700m
- ・隣の集落から15km
- ・スキー場を2つ超えたその奥
- ・100世帯270人過疎化の進む集落

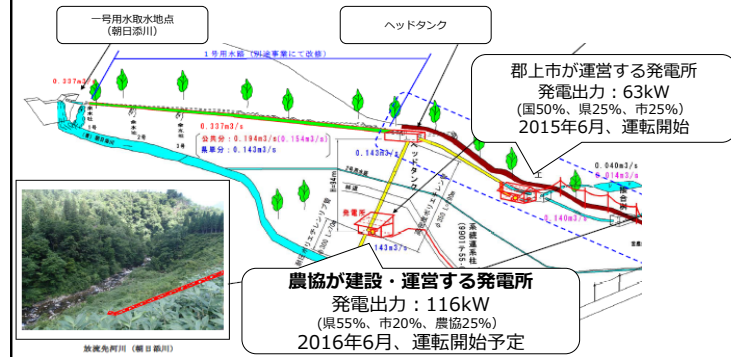
岐阜県郡上市・石徹白（いとしろ）地区における小水力発電の歩み

2007~8年度	2009年度	2010~11年度	2012年度~
<ul style="list-style-type: none"> ・3機実験的に導入 ・発電ポテンシャルと消費電力量を調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型らせん水車設置 ・地元NPOの事務所の照明と外灯に利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・上掛け水車を設置し、農産物加工所の電気の一部をまかなう ・石徹白小学校児童とピコピコ制作・設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業型小水力発電所の基本設計 ・小水力発電所建設のための組織づくりと地域内合意形成
			<p>↓</p> <p>2014年4月 石徹白農業用水農業協同組合 設立</p> <p>2015年6月 県・市による発電所（63kW）稼働開始</p> <p>2016年6月 農協による発電所（116kW）完成予定</p>

明治時代の人たちが、山の中を
3kmにわたって、水路を引いてきてくれた
⇒その水路を活用



行政の発電所と、住民出資の発電所の2つが共存



郡上市が運営する発電所
発電出力：63kW
(国50%、県25%、市25%)
2015年6月、運転開始

農協が建設・運営する発電所
発電出力：116kW
(県55%、市20%、農協25%)
2016年6月、運転開始予定

地域住民が出資し、リスクを迫る発電所
売電収益を、新たな農業振興・農村振興事業の原資に

100世帯の集落で、ほぼ全戸出資による農協を新たに設立

住民が農協設立、売電へ



収益で農産物加工や開発

石徹白発電で農村維持
2014年(平成26年)4月16日(水)曜日は、岐阜新聞に掲載された記事の抜粋。住民が農協設立、売電へ。収益で農産物加工や開発。石徹白発電で農村維持。2014年(平成26年)4月16日(水)曜日は、岐阜新聞に掲載された記事の抜粋。住民が農協設立、売電へ。収益で農産物加工や開発。石徹白発電で農村維持。

2014年(平成26年)4月16日(水)曜日は、岐阜新聞に掲載された記事の抜粋。住民が農協設立、売電へ。収益で農産物加工や開発。石徹白発電で農村維持。2014年(平成26年)4月16日(水)曜日は、岐阜新聞に掲載された記事の抜粋。住民が農協設立、売電へ。収益で農産物加工や開発。石徹白発電で農村維持。

岐阜新聞 2014年4月16日(水)曜日は、岐阜新聞に掲載された記事の抜粋。住民が農協設立、売電へ。収益で農産物加工や開発。石徹白発電で農村維持。2014年(平成26年)4月16日(水)曜日は、岐阜新聞に掲載された記事の抜粋。住民が農協設立、売電へ。収益で農産物加工や開発。石徹白発電で農村維持。

岐阜新聞 2014年4月16日(水)曜日は、岐阜新聞に掲載された記事の抜粋。住民が農協設立、売電へ。収益で農産物加工や開発。石徹白発電で農村維持。2014年(平成26年)4月16日(水)曜日は、岐阜新聞に掲載された記事の抜粋。住民が農協設立、売電へ。収益で農産物加工や開発。石徹白発電で農村維持。

2015年6月1日、行政が建設した発電所が稼働を開始



小水力発電の事業開発までの流れ

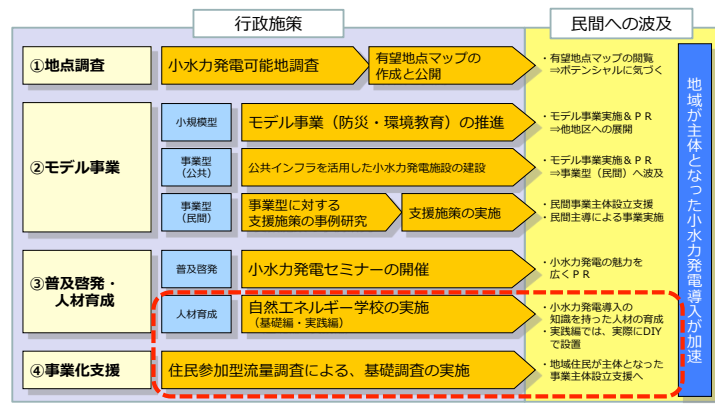


発電所導入を進める上での障壁

- ① 小水力発電のポテンシャルがあるにもかかわらず、小水力発電の基礎的な知識がないため、何から始めていいのかわからない。
- ② 基礎調査・概略設計をするための費用を捻出することができない。
- ③ 小水力発電の事業化の可能性が出てきたとしても、地域の合意形成や事業主体設立ができない。
- ④ 実施設計～施工の段階で、建設費が高くなってしまい、コスト削減ができない。
- ⑤ その他
系統連系ができない、地権者の同意が得られないなど

石徹白の成功を特殊事例としないために、郡上市小水力発電推進会議にて、地域が事業主体となった小水力発電導入を可能にする「郡上モデル」を開発中。

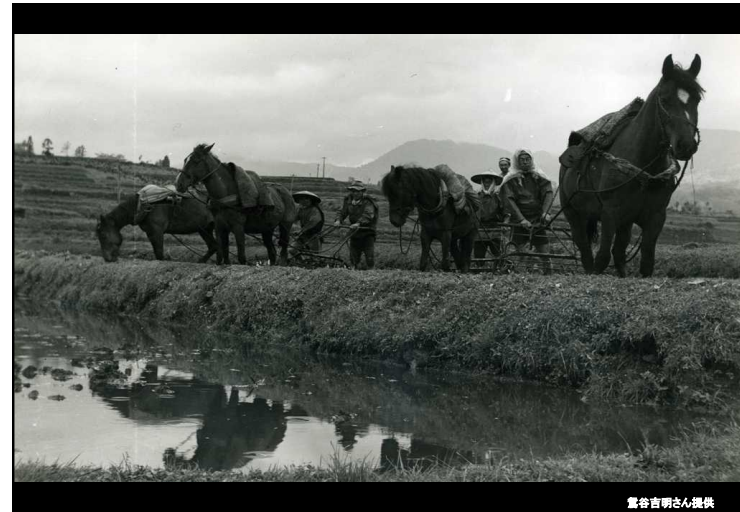
郡上市小水力発電調査研究会 小水力発電導入施策の全体像



地域づくりは、

今になってはじまったことではない

地域づくりは、
今になってはじまったことではない
自分たちの手で暮らしをつくること
自分たちで村をつくること
かつては、あたりまえのことだった



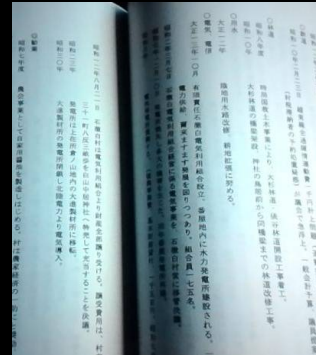
富谷吉明さん提供





船戸鉄夫さん提供

昭和30年までは、
水力発電で、エネルギーも自給していた



大正13年(1924年)10月
有限責任石徹白電気利用組合設立。
番屋地内に水力発電所建設される。
組合員175名。



昭和30年
発電所閉鎖し、
北陸電力より電気購入。

先人達が、自分たちの手で暮らしをつくり、
仕事をつくり、村をつくってきたように・・・



地域事業主体形成において、より大切なこと

1. 地域の人たちの思い・関心ごと・懸念に寄り添う
2. 高度成長期以前の暮らしをふりかえる
(聞き書き・地元学など)
3. 成功イメージを共有する(夢を語る・事例を見る)
4. 小さな成功体験を積み重ねる
5. 仲間になる

「地域主体形成」ではなく「潜在的自治力の覚醒」